

フィリピン ニエバビスカヤ キラン村 植林地近況 (電力総連支援)

2005年9月15日作成
オスカニア事務所



写真上は写真下と同じサイトを本年2005年に撮影したものである。木々も大きく育ち、下草刈りをせずとも木々は十分に太陽の光を浴びることができるまでになっている。

写真下は1993年に植栽を行った場所の下草刈りをやっている。時期は雨季であり、全体に青々とした印象だが、乾季になれば茶色の枯れ草が広がるばかり。



93年植林地 (94)



2004年
30日間ボランティア植林地

2004年
電力総連植林地



2004年
30日間ボランティア植林地

2004年
電力総連植林地



1993年の植林地の写真、右の写真は拡大写真



植林前



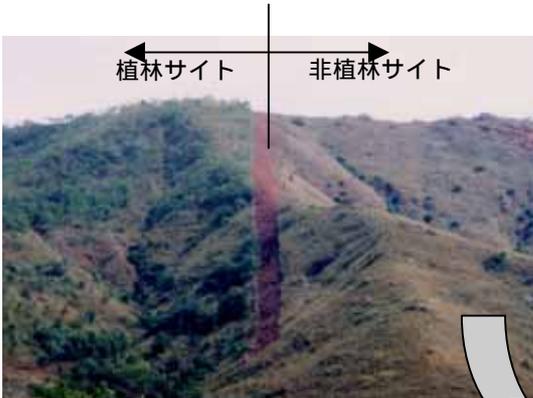
ビスカヤ7年後



物理的な工法によってひとまずの土壌の安定を図り植林する

土壌崩壊と流出防止工

もくほんるい ひしよく
木本類による被植がないため、土壌の崩落・流出が見える



ビスカヤ植林成果



植林サイトと非植林サイト

拡大



手作り防火帯



電力総連が寄贈したブルドーザ

写真真ん中左中央に見えるのは防火帯。近景が写真右上。写真左下が94年当時の植林作業現場への道兼防火帯。当時は手作業で防火帯も整備しており、平らにする整地まではいたらず、苗木運搬などの登坂も場所によっては手を使いながらよじ登らなければならない場所もあった。しかし、写真右下のブルドーザの支援によって、効果的かつ効率的な植林・管理や防火対策が可能になった。現地ワーカーによる、植栽、施肥、草刈などの日常作業や、日本人ボランティアにとっても植林サイトへのアクセスに関して大きく改善された。

このほかにもバンブーハウスの増築なども行われた。これらは植林サイトに近い場所に日本人ボランティアや作業員の宿泊施設を確保することで、時間的・費用的に効率がよくなった。このような住環境の改善は作業員等にとっても必要であるが、日本人ボランティアの継続的受け入れにとっても必要なことである。日本人ボランティアの訪問は、地域住民のモチベーション維持や植林の大切さに対する「気づき」を促す上でよい効果がある。地元住民による森林管理を重視するオイスカにとって重要な要素となっている。